

らかにした。黒人解放軍は、ジンバブエ各地の霊媒師の支持を得、その結果その霊媒師が影響力をもつ地域の市民もまた解放軍を支持した。

本発表では「祖霊を『作る』儀礼」をとりあげ、政治的、宗教的指導者となりうる霊媒師誕生の過程を考察する。

霊の階層構造

シヨナ族の信仰には、ムワリ(Mwari)と呼ばれる至高神が存在する。至高神は、この世のすべてを支配していると考えられており、「人類の創造主」(Musikavahyu)、「天の人」(Nyadenga)、などと表現される。至高神は人々の直接の祈りの対象ではない。人間の祈りは、精霊や祖霊の仲介によって神に届けられる。それらの霊は、神に近い順から、メポ(mhepo)〈精霊〉、モンドーロ(mhondoro)〈首長霊、祖霊〉、そしてその他の祖霊に分類される。これらの霊は特定の人物を憑依することとこの世にあらわれ、人々と直接対話し、その願いをきく。

祖霊を「作る」儀礼

人々と神を媒介する祖霊は、五つの儀礼を経て初めて信仰の対象となる。まずは、三つの葬送儀礼である。葬儀(nhano)、追悼儀礼(nyaradzvo)、そして相続・喪明けの儀礼(kurova gwa)である。これらの儀礼では、死者の霊が霊界(mhepo)に送られ、そこで浄化され、再び家族のもとへ守護霊として迎えられる。これらの儀礼を経ない霊は、悪霊(ngazi)として森の中をさまよいつけるといわれている。

霊媒師は祖霊の意志によって選ばれる。憑依はある日突然、不特定の人に起こる。ある人間に初めて憑依が起こったとき、

周囲の人間は、その霊が何者であるかを知らない。その霊が何者であるかを特定し、信仰の対象として正式に崇めるための準備儀礼が「祖霊を『作る』儀礼」である。同儀礼は二つの儀礼から成る。一つは清めの儀礼で「祖霊を洗う」(Kugeza mudzimu)とよばれる。この儀礼では、憑依の起こる兆候がある人間を、薬草と聖水で清め、悪霊を追い払うというものである。第二の儀礼では、酒や音楽を用いて憑依を誘発し、霊に対して尋問をおこなう儀礼である。霊の返答によって、その霊が祖霊であるか、精霊であるか、または悪霊であるかが判断される。これらの儀礼を経て初めて、信仰の対象、そして神と人間との媒介としての祖霊・精霊そしてそれらと一体のものとしての霊媒師が「作り」あげられるのである。この儀礼は霊媒師誕生の儀礼、すなわち伝統的な宗教的、政治的リーダーが誕生する儀礼なのである。

巫者の守護霊——東アジアでの比較——

川上 新二

本発表では、巫の守護霊にはその社会の構造が反映され、父系出自集団をもつ社会で活動する巫は父系の祖先や神を守護霊にするというファーストの指摘(Problems and Assumptions in an Anthropological Study of Religion, *Journal of the Royal Anthropological Institute*, 89(2), 1959)と関連させながら、韓国、奄美・沖縄、中国漢族の巫について考察した。

韓国は父系出自集団をもつ社会であり、韓国の降神巫は自分の婚家や実家の死者を守護霊とし、降神巫は守護霊になった死

者を祖先と呼ぶところから、ファースの指摘は韓国の降神巫の場合にも該当するようである。しかし韓国の降神巫で守護霊とされる死者には、実家の者だけでなく婚家の者もあり、また実家の死者の場合、降神巫の父系(または父方)だけでなく母系(または母方)の死者も守護霊とされる。ファースは、守護霊の様に反映されるのは社会の「主要な原理のなかで、高度に選択されたもの」とも述べているが、婚家の死者も守護霊とし、実家の死者の場合でも父系(父方)と母系(母方)の双方の死者を守護霊とする韓国の降神巫では、選択されたものは出自の原理ではなく、「既婚女性の生活範囲」という原理ではないかと考えられる。また、ソウルの降神巫では幾世代も遡った遠い世代の死者も守護霊とされるが、そこには系譜の原理も選択されていると思われる。

沖繩本島も父系出自集団がみられる地域であり、沖繩のユタは祖先を守護霊とするところから、父系出自集団と巫の守護霊に関するファースの指摘は沖繩の場合にも該当するようである。しかし、守護霊の觀念に関して沖繩のユタと変わらないとされるブラジルの沖繩系移民社会のユタでは、その守護霊に父系(父方)の祖先だけでなく母系(母方)の祖先もみられる。沖繩と同じ文化圏に属するとされる奄美のユタも、守護霊はユタの祖先の誰かが拝んでいた神とされるが、その神を以前に拝んでいた者として、ユタの父系(父方)の祖先だけでなく母系(母方)の祖先が主張される場合もある。また奄美・沖繩のユタの場合、韓国の降神巫とは異なり、婚家側の祖先との関わりが主張されることは多くないようである。沖繩社会の親族原理

の基本はキンドレッドであると指摘されたり、奄美地方の親族組織に双系の性格が指摘されたりすることがある点などから、奄美・沖繩のユタの守護霊の様相には、キンドレッドや双系の原理が反映しているとも考えられる。

中国漢族の巫の守護霊には玉皇、観音、如来、孔子、関羽、西王母などのような漢族全域で信仰されている神霊の他に、地元村や省の出身者で死後に神になった神霊もあるという。地元出身者で神になったという場合には、少なくとも百年以上前に神になった者であり、また、人間が死後に神になった神霊は村の廟に祀られていたりすることである。中国漢族も父系出自の觀念をもつ社会であるが、このように中国漢族の巫の場合、守護霊とされるのは巫自身の祖先ではないようであり、出自の觀念と巫の守護霊に関するファースの指摘は漢族社会には該当しないようである。漢族の巫の場合、選択された原理は出自の觀念ではなく、地元村や省出身の死者が守護霊とされる場合には地縁という原理が、観音など漢族全域で信仰されている神霊が守護霊とされる場合には漢族全域で受け入れられるものという原理が、それぞれ反映されている可能性が考えられる。一方、韓国の降神巫には巫自身の子供の死者あるいは親族の子供の死者を守護霊にする者がいるが、福建省の一部や香港、台湾にもそのような子供の死者を守護霊とする巫が存在する。中国漢族の巫のなかにも、地元出身者で死後に神となった幼女の霊を守護霊とする者があり、子供の死者もしくは幼女の霊を守護霊にするという観点からの巫の比較が今後の課題となる。